

## 全地連「技術フォーラム'91大阪」に参加して

加藤 啓<sup>ひらく</sup>

### フォーラムの趣旨

昨年に引き続き、第2回・全地連「技術フォーラム'91・大阪」は、平成3年9月12日（水）～9月14日（金）にわたって大阪市の大阪厚生年金会館を主会場として開催（参加者約450名）された。

このフォーラムの趣旨は、ボーリングおよび地質調査に関する技術の向上さらには若手・中堅技術者の交流を促進し、地質調査業の社会的地位の向上と業界組織の活性化をはかることを主目的として昨年からスタートしたものである。

つぎに、今年のフォーラムに参加した一人（年齢60才）として、会場（セッション）の雰囲気、ポスター発表・展示、特別講演の順に所感の一端を簡単に記してみたいとおもう。

### 会場の雰囲気

昨年の「技術フォーラム'90・東京」の開催は第1回目ということで、58編の口頭発表があって大成功であったと聞いている。今年の「技術フォーラム'91・大阪」の開催では、口頭発表編数は100編、昨年のほぼ倍数に達しその内容も、調査試験手法

のAセッション・Bセッションおよび地盤工学的問題のCセッション・Dセッションとも各発表会場は満員盛況で、発表内容を真剣に研修しようとする参加者の真摯な姿勢と業界の技術向上に寄与しようとする若手・中堅技術者の旺盛で、かつ意欲的な高揚をみる雰囲気であって「フォーラムの趣旨」がみごとに開花している感じであった。

### ポスター発表・展示

今回のフォーラムでは、初めてポスター発表・展示が試みられた。その内容は、8編のポスター発表と7編の展示であった。

ポスター発表のおもなものは、

- ① ボーリング・サンプリング
- ② 室内試験
- ③ 原位置試験・現地調査法
- ④ 防災

展示は

- ① 大阪平野
- ② 近畿の活断層
- ③ 丘陵地地盤
- ④ コンピュータによるデモンストレーション等

これらの発表・展示の研究および紹介は、

いづれも鮮明に「関西地域の地盤の特性」を映じていたので評価が高かった。

#### 特別講演：地震予知と活断層

京都大学理学部教授 尾池 和夫 先生  
時あたかも、雲仙の普賢岳・フィリピンのピナツボとあいついで噴火し、火砕流の発生による火山災害の恐ろしさを改めて認識した時に、時期を得た「特別講演」を聴くことができ幸運であった。

講演のおもな内容は、

1. 地震発生メカニズム
2. 地震災害
3. 地震の長期的予知
4. 地震の短期的予知
5. 地震と火山活動等であった。

現在のプレート運動が持続するかぎり、地下岩盤にはストレス（応力）が蓄えられているので、岩盤の強度が蓄えられたストレスに耐えられなくなると、大きく破壊してくずれる。このとき大地震が発生する。また、プレート運動が続いているかぎり火山の噴火がおこる。大地震・火山噴火の傷跡は、繰り返し動いて、日本列島（弧状列島）には必ず将来も、起り得る自然現象であると説かれた。

地震・火山列島に住む一人ひとりの市民防災意識が、自主防災の意識を育てて、地域を災害から守る基本となり、企業等での防災体制をつくりあげて、さらに、行政担当者に対して着実な仕事をとぎれなく進め

させる原動力となるのであると力説された先生の講演は多くの教訓を与えてくれた。

高田さく井工業㈱

